

## 第7回宮古教会分かち合いマーケット開催

9月30日、台風17号の影響が心配されたこの行事でしたが、どっぴり好天に恵まれ、開始の4時間前から並ぶ人もあるほどに人気はすっかり定着している様子です。



教会に全国から寄せられた支援金を原資に、寝具類、お米、各種野菜、調味料、日用品ペーパー類等が格安で提供されました。また、今回は岩手県沿岸4ベースも揃い、各道県特産メニューが来場者にこれもまた格安で提供されました。

宮古教会の信徒は20人ほどですが、毎回盛岡の教会、千葉県茂原教会の信徒の方が助っ人に駆けつけてくださいます。この方たちの協力なしには運営はできません。本当に感謝です。

ほかに、これまで残っていた中古衣類や日用品もたくさん並べられましたが、多くの方が品定めをされ、こちらは無料でお持ちいただきました。掘り出し物を見つける楽しさを味わっていられる方が多かったのでしょうか、まだ支援が十分とは言い切れないのかとの思いもよぎりました。



「宮古産業まつり」という大きなイベントと重なったにもかかわらず、約300の方が来てくださいました。格安のお米がお目当ての方すべてに行き渡らなかったことは、心残りでした。

普段、移動カフェでお邪魔しているたくさんの仮設住民からも声を掛けられ、喜ばれたのは嬉しい限りです。

今回の「分かち合いマーケット」は、第7回目でしたが、今回初めて、岩手県沿岸4ベースの方々と一緒に炊き出しイベントも行いました。宮古ベースはいつものように「ジンギスカン」、大槌ベースは「長崎ちゃんぽん」、釜石ベースは「ホットドッグ」、大船渡ベースは「たこ焼き」と、それぞれの地域性を出した食べ物で、みなさんに大好評を博しました。各ベースが準備した「約100食」「200食」は、いずれも完売で、手伝ってくださっていたボランティアの方々もホッとした表情でした。

沿岸4ベースの合同行事もちょうどこれで一巡しました。4ベースはこれまでも定期的に集まって情報交換、協議をしてまいりました。今後もまた、必要な支援について知恵を出し合って、岩手沿岸支援を考えていきます。

カリタス宮古ベース スタッフ  
和田 真一

## 仙台教区滞日外国人支援センター 開設一周年記念式典

11月18日、仙台教区滞日外国人支援センターの1周年記念のコンサートが上智学院・仙台教区滞日外国人支援センター主催、カトリック大船渡教会・CTIC（カトリック東京国際センター）協力のもとに行われました。上智大学の創立100周年を記念してマニラから来日した、Jesuit Music Ministry（JMM/イエズス会音楽局）のHimig Heswita（イエズス会士のメロディ）が、東日本被災地復興支援のため、コーラスのHimig Koenji（六本木チャペルセンターで奉仕している聖歌隊）の14名の方々と共に「歌で祈りを！」と大船渡でコンサートをすることになりました。

Himig Heswitaは、フィリピンで教会音楽やヒーリングミュージックなどを通して多くの支持を受けている5名グループです。そのうちの3名は、アーネル神父・ピーター神父・フロージュ神父というイエズス会の司祭です。

コンサート前、小教区の皆さんとミサを捧げ、説教の中でピーター神父が「『終末は希望へのメッセージである』津波のあとのここも同じであり、つねに『キリストが共に歩いておられる』と、印象深いメッセージを話してくださいました。

ミサ後、海の星幼稚園でコンサートが行われ、80名ほどの人が集まり、中には七五三の着物を着た子供の姿もありました。また、コンサート前には大船渡・陸前高田にいるフィリピンのPAGASA（希望）グループが作ったフィリピンの料理も並び、被災したフィリピンのお母さんたちを支援する奇跡の一本松がデザインされたPAGASA IWATEのTシャツも販売されました。



アーネル神父のピアノが奏でるメロディーにのせ、タガログ語と英語の歌に聞き入り、中には涙を流しながら聴く人の姿も見られました。幼稚園のホールいっぱいには彼らの優しい癒しの歌声がひびき、歌を通して皆がひとつになり、苦しみを乗り越え、希望を与えるひと時となりました。

コンサートに参加した人々は、「もっと、多くの人に聞いてもらいたかった」と残念そうに話していました。



{写真説明}

80人の聴衆を前に、自分たちの歌う聖歌が、被災者の心に届くように心を込めて歌い、演奏するイエズス会士たちと、聖歌隊のメンバーたち。

仙台教区滞日外国人支援センター  
林 愛子